

尚美学園大学芸術情報研究 第12号
研究ノート

フォルマシオン・ミュージカルの1テキストの内容研究

門田 幸久

The contents study of one text of “Formation musicale”

MONDEN Yukihsa

Abstract

This report deals with new order of the French solfège education, about instruction contents of one text based on “Formation musicale”. In France, the conventional solfège was renovated, and its name was changed to “Formation musicale”. From the overall texts of seven volumes, I would like to write a summary on volume 1 (The First Year of the course), of education contents in 22 sections (lessons) and three reviews, gathering and organizing all lessons and training exercises and tests in the review section. In the end, I wrote about the characteristics of the education problem of volume 1. The musical work of each lesson is chosen appropriately from ancient and modern times for understanding and expression of musical work, mainly on “reading music scores (by singing reading music)”, the tune up problem from every angle, preparatory training exercises are arranged in an effective order. I would like to study subsequently the education contents from volume 2 to volume 7 of this text in future.

Key Word: formation musicale, solfège, reading music scores, interval, scale

[要約]

本稿は、フランスのソルフェージュ教育の新体制、「フォルマシオン・ミュージカル」による1テキストの教育内容について調べた。フランスでは、従来のソルフェージュは一新され、「フォルマシオン・ミュージカル」と名称が改められた。ここでは、全7巻で組まれているテキストの中の第1巻（課程1年目）について、22の課（レッスン）と3つの復習における教育内容の概要、全ての課と復習における各課題の内容、各課と復習の終わりにある実習とテストの主な問題の内容を、整理しまとめた。そして、このテキスト第1巻の教育課題の特徴について最後にまとめた。このテキストの各「課（レッスン）」は、古今の音楽的に適格な音楽作品が選ばれ、音楽作品の理解と表現に向けて、「歌う読譜（歌うことによる読譜）」を中心に、あらゆる角度からの準備練習課題が効果的に配置され、構成されていた。今後、このテキストの第2巻から第7巻の教育内容についても、引き続き整理しまとめる予定である。

キーワード：フォルマシオン・ミュージカル、ソルフェージュ、読譜、音程、音階

はじめに

フランスにおけるソルフェージュ教育の歴史、現在のフォルマシオン・ミュージカルの教育内容については、詳細な研究論文がある¹⁾。泉谷千晶著「フランスのフォルマシオン・ミュージカルの変遷と改革 - 1978年以降のソルフェージュ教育の動向 - 」の中で、従来のソルフェージュからフォルマシオン・ミュージカルへの移行について、次のように書かれている²⁾。「1978年、5月の政令により、従来の基礎科目であるソルフェージュは名称を改められ、「フォルマシオン・ミュージカル」(総合的な音楽形成科目)に一新された。(中略)この改革の要因となった問題については、概ね次のように語られてきている。それまでのソルフェージュではそれぞれの訓練を目的としたカリキュラムの細分化が、その指導法まで分断化の傾向を強める方向に進んでしまったこと、その結果、各種の訓練が高度になればなるほど本来器楽の表現に生かされるべきソルフェージュの学習が、反対に音楽から次第に離れた無味乾燥な特殊訓練で完結してしまう心配が現実に見られるようになってきたことが挙げられている。それがいかに高度な知識や読譜技術であっても、音楽の全体性を見失い、一つ一つの訓練が切り離された「部分」の寄せ集めで完結する限り、実際の楽曲全体を把握し理解することや、器楽を用いた実技の表現の中にソルフェージュで養った知識を生かしていく方向には直接結びつかないことが、今までの指導上の大きな問題であり、今後の改善されるべき課題とされたのである。(中略)こうした反省が原動力となり、これまでのソルフェージュは1978年の改革を境に、名称自体も「フォルマシオン・ミュージカル」に改められ新しいソルフェージュ教育への改善が始まったのである。それは、これまでのソルフェージュ教育を根底から否定し覆るものではなく、ソルフェージュ教育(知識)と器楽教育(表現)の間に広がった溝を回復することを大きな課題とし、また実作品をソルフェージュ課題の中にできる限り取り上げることで、音楽作品の理解と表現をより深め、身につけることを目標とした教授法の改善なのである。その強い願いと意志が「フォルマシオン・ミュージカル=総合的な音楽形成科目」という名称に託されているのである。」また、同論文において、1978年にフランス文化省により公表されたフォルマシオン・ミュージカルの『学習要項』についての全容と解説が書かれている³⁾。

現在、フランスではフォルマシオン・ミュージカルのテキストは多種出版されている。本稿は、全7巻で組まれているLabrousse, Marguerite著 *Cours de FORMATION MUSICALE* (フォルマシオン・ミュージカル講義)⁴⁾の第1巻(課程1年目)⁵⁾の教育内容を調べてまとめた。このテキストの「序文」に次のことが書かれている。「学習者が音楽の総合的な視野を得ることを目指しており、フォルマシオン・ミュージカルの初歩(課程1年目)で必要な知識全体を、習得出来るように書かれています。」

本稿の「3. 各課題の内容」と「4. 各課の終わりにある実習と各復習の終わりにあるテストの問題内容」については、各課と各復習における「歌う読譜(歌うことによる読譜)」とそれに向かう教育目標に対して配置、構成された各課題と実習、テスト問題の内容を整理しまとめた。各課題の教育内容、実習内容、テスト内容を別々に整理することは、従来のソ

ルフェージュの教育方法による見方に陥る危険性もあるが、「2. 各課（レッスン）と復習で学習する教育内容の概要」を補うためにまとめた。

1. このテキストにおける教育のための課題について

第1巻は、22の「課（レッスン）」と3つの「復習」で組まれている。全ての課には「歌う読譜（歌うことによる読譜）」を中心に配置、構成された4～10種類の勉強のための課題があり、3つの復習には「歌う読譜（歌うことによる読譜）」を中心に配置、構成された3～4種類の課題がある。また、全ての課の終わりには実習問題（それぞれ2～7問）、3つの復習の終わりにはテスト問題（それぞれ8問）がある。課と復習は全て各3ページの分量で統一されている。全ての課と復習の中で勉強する課題は次の14種類である。

（1）音符の読譜（2）リズムの記憶（3）リズムの識別（4）リズムの読譜（5）イントネーション（6）識別（音、またはフレーズの）（7）歌う読譜（歌うことによる読譜）（8）間違い探し（9）音符（または音の高低の）の書き取り（10）リズムの書き取り（11）記憶化とイントネーション（12）即興（13）曲を聴いて問いに答える（14）ロンドーのリズムを作る。上記の各課題の（1）～（14）の番号は、筆者が整理上付けたもので、順序的な意味などは無い。

このテキストの「序文」の中で、以下について注意が示されている。

- ・「リズムの読譜」：教育的効果に変化をつけるため、様々な方法が示してある（リズム打ち、音符読み、歌唱、演奏、交互に、または独唱（奏）、二重唱（奏）三重唱（奏）による）。
- ・「リズムの記憶」：本を閉じて記憶し、その後楽譜を見るようになっている。「リズムの読譜」の準備段階として役に立つ。
- ・「イントネーション」：「歌う読譜（歌うことによる読譜）」から生まれていて、追求する目的（声のウォーミングアップ、正確さを養う訓練、旋律の記憶、目と耳の相互関係の育成など）に応じた、様々な取り組み方を知るきっかけを与える。
- ・「実習（実用的な勉強）」：学習者の自習に役立つよう作成してある（従って、自宅または教室で、一人で行う必要がある）。

2. 各課（レッスン）と復習で学習する教育内容の概要

2. 1. 音符、リズム、音楽用語、課題の種類






各課（レッスン）と復習で学習する教育内容の概要（音符、リズム、音楽用語、課題の種類）を次の表1にまとめた。「音符」「リズム」「音楽用語」に関しては、課と復習が進むにつれて表に書かれた各要素の範囲が増える。「課題の種類」は、表に書かれた順で各課と復習の中に配列されている。

次の表1が、各課と復習で学習する音符、リズム、音楽用語、課題の種類の概要である。

<表1> 各課と復習で学習する音符、リズム、音楽用語⁶⁾、課題の種類

課	音符	リズム	音楽用語	課題の種類
1		 2 / 4拍子	f (フォルテ)、 p (ピアノ)、 Allegro (アレグロ)、 Vif (速いテンポの)、 (フリーズ・マーク)	(1) 音符の読譜 (2) リズムの記憶 (3) リズムの識別 (4) リズムの読譜 (5) イントネーション (6) (音の高低の) 識別 (7) 歌う読譜
2			 (クレッシェンド)  (ディミヌエンド)	(1) 音符の読譜 (2) リズムの記憶 (4) リズムの読譜 (8) (リズムの) 間違い探し (5) イントネーション (9) 音の高低の書き取り (7) 歌う読譜
3		 3 / 4拍子	mf (メゾフォルテ) Moderato (モデラート) Lent (遅い) Allant (活発な)	(1) 音符の読譜 (2) リズムの記憶 (4) リズムの読譜 (10) リズムの書き取り (11) 記憶化とイントネーション (6) (フレーズの) 識別 (9) 音の高低の書き取り (12) 即興 (7) 歌う読譜
4		 4 / 4拍子		(1) 音符の読譜 (2) リズムの記憶 (4) リズムの読譜 (8) (リズムの) 間違い探し (11) 記憶化とイントネーション (6) (フレーズの) 識別 (9) 音符の書き取り (12) 即興 (7) 歌う読譜
5		 	 (セーニョ記号)	(1) 音符の読譜 (2) リズムの記憶 (3) リズムの識別 (4) リズムの読譜 (11) 記憶化とイントネーション (6) (フレーズの) 識別 (9) 音符の書き取り (7) 歌う読譜
復習 1			Allegretto (アレグレット)	(1) 音符の読譜 (4) リズムの読譜 (7) 歌う読譜
6				(1) 音符の読譜 (2) リズムの記憶 (3) リズムの識別 (8) (リズムの) 間違い探し (10) リズムの書き取り (4) リズムの読譜 (5) イントネーション (12) 即興 (9) 音符の書き取り (7) 歌う読譜
7			pp (ピアニッシモ) Andante (アンダンテ) Dolce (ドルチェ) (フェルマータ)	(1) 音符の読譜 (2) リズムの記憶 (10) リズムの書き取り (4) リズムの読譜 (11) 記憶化とイントネーション (9) 音の高低の書き取り、 音符の書き取り (7) 歌う読譜
8			オーケストラスコア、 シンフォニー	(13) 曲を聴いて問いに答える (CD1) (7) 歌う読譜 (1) 音符の読譜 (3) リズムの識別
9			 (スラー)  (スタッカート) Vivace (ヴィヴァーチェ)	(1) 音符の読譜 (4) リズムの読譜 (6) 識別 (速度、強弱、フレーズ・マークを付ける) (11) 記憶化とイントネーション (9) 音符の書き取り (7) 歌う読譜

10			音階、 隣り合わせの音、 全音と半音、 八長調の音階	(5) イントネーション (6) (音階の上昇、下降の) 識別 (8) (音の上昇と下降の) 間違い探し (9) 音符の書き取り (1) 音符の読譜 (4) リズムの読譜 (10) リズムの書き取り (7) 歌う読譜
復 習 2				(1) 音符の読譜 (2) リズムの記憶 (3) リズムの識別 (7) 歌う読譜 (2声)
11			ロンドー (クプレとリフレインの交代)	(13) 曲を聴いて問いに答える (CD2) (14) ロンドーのリズムを作る (1) 音符の読譜 (4) リズムの読譜 (7) 歌う読譜
12			隣り合わせの音 (全音と半音)、 間が離れた音、 アウフタクト	(1) 隣り合わせの音の練習と間が離れた音の練習 (2) リズムの記憶 (4) リズムの読譜 (10) リズムの書き取り (5) イントネーション (6) (隣り合わせの音と間が離れた音の) 識別 (9) 隣り合わせの音の書き取り、間が離れた音の書き取り (7) 歌う読譜 (CD3)
13			リゴードン (テンポの速い踊り)	(1) 音符の読譜 (2) リズムの記憶 (10) リズムの書き取り (4) リズムの読譜 (5) イントネーション (6) (フレーズの) 識別 (9) 隣り合わせの音符の書き取り、間が離れた音符の書き取り (8) 間違い探し (7) 歌う読譜
14			アルペジオ、 cantabile (カンタービレ)	(1) 音符の読譜 (4) リズムの読譜 (8) (リズムの) 間違い探し (5) イントネーション (6) (アルペジオによる音の上昇と下降の) 識別 (9) 音の書き取り (10) リズムの書き取り (7) 歌う読譜 (CD4)
復 習 3			メヌエット	(4) リズムの読譜 (2パートのメロディ) (7) 歌う読譜 (CD5) (1) 音符の読譜
15			リート (ドイツ歌曲)	(13) 曲を聴いて問いに答える (CD6) (8) 間違い探し (1) 音符の読譜 (4) リズムの読譜 (7) 歌う読譜 (CD6の曲)
16			ガヴォット (テンポの速い踊り)、問いと答え (メロディの)	(1) 音符の読譜 (13) 曲を聴いて問いに答える (7) 歌う読譜 (12) 即興 (4) リズムの読譜
17			音程 2度、3度、4度、5度、6度	(12) 即興、音程の説明 (2度～6度) (5) イントネーション (1) 音符の読譜 (4) リズムの読譜 (7) 歌う読譜
18				(2) リズムの記憶 (3) リズムの識別 (4) リズムの読譜 (8) (リズムの) 間違い探し (10) リズムの書き取り (1) 音符の読譜 (5) イントネーション (9) 音の書き取り (7) 歌う読譜 (CD7)

19			(シャープ) ♩ (ナチュラル)	(1) 音符の読譜 (2) リズムの記憶 (10) リズムの書き取り (12) 即興 (4) リズムの読譜 (5) イントネーション (6) (全音と半音の) 識別 (7) 歌う読譜
20			ff (フォルティッシモ) semplice (センプリチェ) arco (アルコ) pizzicato (ピッチカート) tenuto (テヌート)	(1) 音符の読譜 (2) リズムの記憶 (4) (ロンドーの) リズムの読譜 (13) 曲を聴いて問いに答える (CD8) (7) 歌う読譜
21			(フラット) D.C.(da capo) al fine (ダ・カーポ・アル・フィーネ) Grazioso (グラジオーソ)	(1) 音符の読譜 (2) リズムの記憶 (8) (リズムの) 間違い探し (4) リズムの読譜 (5) イントネーション (6) (の) 識別 (7) 歌う読譜
22			> (アクセント) Legato (レガート)	(1) 音符の読譜 (2) リズムの記憶 (10) リズムの書き取り (4) リズムの読譜 (9) 音符の書き取り (5) イントネーション (7) 歌う読譜

2.2. 各課と復習で使われる実作品

各課と復習で使われる実作品を 表2 にまとめた。

<表2> 各課と復習で使われる実作品

課	曲名<作曲者または編曲者名>
1	はやし歌、ハンガリーのやさしいロンド<A. Voirpyの和声伴奏による>
2	はやし歌、ハンガリーのロンド<A. Voirpyの和声伴奏による>
3	ドイツの曲
4	はやし歌、ユーゲントアルバムより「はなうた」(1~8小節)<Schumann>
5	はやし歌、ドイツの曲
復習1	コラール<J. S. Bach>、「クリスマス」<Daquin>、「道化役者の踊り」(作者不明の16世紀の曲)
6	子供の歌<L. Weiner>
7	子供のためにより「子供の歌」<Bartok>
8	交響曲第7番第2楽章(1~18小節)<Beethoven>(付属CD1)
9	ロシアのポピュラーな歌<Beethoven>
10	コラール<J. S. Bach>
復習2	アカベラの小さな2重唱<Ch. Koechlin>、ハンガリーの歌「私は山羊だった」<Kodaly>
11	クラヴサンのための第6オルドル「刈り入れをする人」<F. Couperin>(付属CD2)
12	「森の獵師(民謡)」<Brahms>(付属CD3)
13	ドイツの曲、リゴードン<H. Purcell>
14	コラール<Mozart>、「失った私の羊を見つけなさい」<J. R. Johnson編曲>(付属CD4)
復習3	「りんご採り」<Kodaly>、「カストルとポリュクス」<Rameau>(付属CD5)
15	ドイツの曲、「秋の歌」<Schubert>(付属CD6)
16	「ガボットの旋律」<Christoph Graupner>、ユーゲントアルバムより「小曲」(1~9小節)<Schumann>
17	エコセーズ<Schubert>
18	ロシアの歌、オペラ「フィガロの結婚」より「フィガロのアリア」<Mozart>(付属CD7)
19	「小さな主婦」(18世紀のフランスの歌)、フランスの歌、「眠りの歌」<Cornelius Gurliitt>
20	交響曲第94番「驚愕」第2楽章(1~24小節)<Haydn>(付属CD8)
21	ロンド<J. I. Pleyel>、クラヴサンのための第4オルドル「ほんの小さなもの」<F. Couperin>
22	メヌエット<Mozart>、ミクロコスモスより「三連音符」<Bartok>

3. 各課題の内容

3. 1 .(1) 音符の読譜

全ての「課」と「復習」にあり、課と復習が進むに連れて、音（音高）の範囲が増える（2. の 表1 を参照）。それ以外については以下の要素がある。

譜表：第1課は高音部譜表のみで、第2課以降は全て大譜表および高音部譜表、低音部譜表。

音符：第1課（2分音符もある）、第14課と復習3（8分音符もある）、第18課（付点8分音符と16分音符もある）、第21課と第22課（16分音符もある）以外の課と復習では4分音符のみ。

強弱記号：フォルテ記号とピアノ記号（第1課から）、クレッシェンド記号、ディミヌエンド記号（第3課から）、メゾフォルテ記号（第4課から）が付く。

その他：ほとんどの課と復習にフレーズ・マークが付いている。第2課から2声部（横に対して、縦に重なる音符の上からと下からの読譜）、復習2から和音（縦に重なる音符の上からと下からの読譜）が加わる。

3. 2 .(2) リズムの記憶

リズムについては、課と復習が進むに連れて、音符と休符の種類が増える（2. の 表1 を参照）。

次の課以外は、リズム譜の小節線、拍子記号が記されていない。

第5課：4/4拍子、1小節。

第12課：拍子記号は記されていない（小節線は記されている）。アウフタトで始まる。

第13課：書いてあるリフレイン（4/4拍子、2小節）を覚えて、クブレを創る。

次の課以外は、強弱記号の表示がない。

第2課と第7課：フォルテ記号、ピアノ記号、クレッシェンド記号、ディミヌエンド記号がある。また、第2課では、記憶したリズムを写譜する。

3. 3 .(3) リズムの識別

これは、全て「(2) リズムの記憶」で覚えたリズムについての課題。

第1課：4種類の中のどのリズムのフレーズを奏したか答える。また、4種類のリズムのフレーズの中から選び写す。

第5課：4種類の中のどのリズムのフレーズを奏したか答える。また、奏したリズムのフレーズを写す。

第6課、復習2、第18課：4種類の中のどのリズムのフレーズを奏したか答える。

第8課：「はやし歌」のリズムを書く。

3. 4 .(4) リズムの読譜

第8課と復習2以外の全ての課と復習に、以下のリズム（リズム譜）と旋律（高音部譜表、

低音部譜表、大譜表)による課題がある。

1パート～3パートのリズム

2パートと3パートのリズムによるカノン

単旋律の「はやし歌」(高音部譜表)

単旋律(高音部譜表、低音部譜表、大譜表)

2パートの旋律(高音部譜表)

2パートの旋律によるカノン(高音部譜表)

単旋律(高音部譜表)と1パートのリズム

単旋律(高音部譜表)と2パートのリズム

課題には、言葉付きのはやし歌、カノンによるもの、ロンドーによるもの、実作品も使われている。ほとんどの課題に、速度標示、強弱記号、フレーズ・マーク、スラー、スタッカートが付いている。旋律のパートは、各課と復習の「(1) 音符の読譜」の音の範囲で出来ている。また、リズムは、課と復習が進むに連れて、音符と休符の種類が増える。(2.の表1を参照)

その他、以下の要素も課題に含まれる。

第10課：アウフタクト(4/4拍子の第4拍目から始まる)

第12課：アウフタクト(2/4拍子の半拍前から始まる)

復習3：タイ(歌詞付きの2パートの旋律「りんご採り」 Kodaly)

第19課：アウフタクト(2/4拍子の第2拍目から始まる)

第20課：与えられたリフレインのリズムに対して、与えられたクプレのリズムを選び、ロンドーのリズムを完成する。

第22課：リズム譜の音符にアクセント記号(>)が付く。

3・5.(5) イントネーション

全て高音部譜表の音で、ほとんどの音符は4分音符、2分音符によるフレーズが課題である。それぞれのフレーズは、同じ課の「(7) 歌う読譜」に含まれるフレーズを、ほぼピックアップしたものによっている。

3・6.(6) 識別(音、またはフレーズの)

第9課以外は全て、直前の「(5) イントネーション」で練習した音、またはフレーズの識別をする課題となっている。

第1課：直前の「(5) イントネーション」課題の音(高音部譜表における2音、1点ハ音と1点二音)の識別。

第3課、第4課、第5課、第13課、第14課：直前の「(5) イントネーション」課題のフレーズの識別。第4課、第5課はさらに、識別したフレーズを写譜する。第13課は、2点ハ音で終わったフレーズも答える。第14課はさらに、八長調の主和音の上昇によるアルペジオと下降するアルペジオの識別。

第9課：曲を聴いて、楽譜（大譜表）に速度標示、強弱記号、スタッカート、スラーを書く。

第10課：直前の「(5) イントネーション」課題で練習した八長調の音階の、上昇と下降の識別。

第12課：直前の「(5) イントネーション」課題で練習した隣り合わせの音と、間が離れた音の識別。

第19課：直前の「(5) イントネーション」課題の中の音（高音部譜表における、1点嬰ヘ音と1点ヘ音）の識別。

第21課：直前の「(5) イントネーション」課題の中の音（高音部譜表における、1点変口音と1点口音）の識別。

3. 7. (7) 歌う読譜（歌うことによる読譜）

全ての課と復習にあり、各課と各復習における教育内容の中心となる課題で、全て実作品が用いられている。各課と復習で学習する拍子、リズム、音符（2. の表1 を参照）によるメロディの課題。ほとんどの課題に、速度表示、強弱記号、フレーズ・マーク、スラー、スタッカートがある。

第1課：コード伴奏付きメロディ（「ハンガリーのやさしいロンド」 A. Viorpy の和声伴奏による）

第2課：コード伴奏付きメロディ（「ハンガリーのロンド」 A. Viorpy の和声伴奏による）

第3課：バスパート付きメロディ（ドイツの曲、フレーズの数、同じフレーズについても調べる）

第4課：伴奏付きメロディ（ユーゲントアルバムより「はなうた」(1～8小節) Schumann)

第5課：バスパート付きメロディ（ドイツの曲）

復習1：コラールのソプラノメロディ（コラール J. S. Bach ） バスパート付きメロディ（「クリスマス」 Daquin ） コード伴奏付きメロディ（「道化役者の踊り」 作者不明の16世紀の曲）

第6課：伴奏付きメロディ（子供の歌 L. Weiner ）

第7課：伴奏付きメロディ（子供のためにより「子供の歌」 Bartok ）

第8課：コード伴奏付きメロディ（交響曲第7番第2楽章（1～18小節） Beethoven ）

第9課：バスパート付きメロディ（ロシアのポピュラーな歌 Beethoven ）

第10課：コラール伴奏付きメロディ（コラール J. S. Bach ）

復習2：アカベラの小さな2重唱 Ch. Koechlin 、ハンガリーの歌「私は山羊だった」 Kodaly

第11課：伴奏付きメロディ（クラヴザンのための第6オルドル「刈り入れをする人」 F. Couperin ）

第12課：伴奏付きメロディ（「森の獵師（民謡）」 Brahms ）

第13課：伴奏付きメロディ（リゴードン H. Purcell ）

第14課：伴奏付きメロディ（「失った私の羊を見つけなさい」 J. R. Johnson 編曲 ）

復習3：伴奏付きメロディ（「カストルとポリュクス」 Rameau ）

第15課：伴奏付きメロディ（「秋の歌」 Schubert ）

第16課：バスパート付きメロディ（「ガボットの旋律」 Christoph Graupner ）

第17課：伴奏付きメロディ（エコセーズ Schubert ）

第18課：伴奏付きメロディ（オペラ「フィガロの結婚」より「フィガロのアリア」 Mozart ）

第19課：伴奏付きメロディ（「眠りの歌」 Cornelius Gurlitt ）

第20課：伴奏付きメロディ（交響曲第94番「驚愕」第2楽章（1～24小節） Haydn ）

第21課：バスパート付きメロディ（クラヴザンのための第4オルドル「ほんの小さなもの」
F. Couperin ）

第22課：伴奏付きメロディ（ミクロコスモスより「三連音符」 Bartok ）

3・8.(8) 間違い探し

各課と復習で学習した拍子、リズム、音符（2.の表1を参照）による課題。

第2課、第4課、第6課、第14課、第18課、第21課：リズムを聴いて、リズム譜の間違いを探す。

第10課：音階の上昇、下降を聴いて、書かれた上昇、下降の矢印の間違いを指摘する。

第13課：ドイツの曲を聴いて、楽譜（大譜表におけるメロディとバス、4/4拍子、ハ長調）の間違い探し。

第15課：ドイツの曲を聴いて、楽譜（大譜表におけるメロディとバス、2/4拍子、ハ長調）の間違い探し。

3・9.(9) 音符（または音の高低の）の書き取り

学習した音とその高低の書き取りと、高音部譜表に音符を書く書き取りがある。

第2課、第3課、第7課：音とその高低の書き取り。

第4課、第5課、第6課、第7課、第9課：高音部譜表に音符を書く書き取り。

第10課、第14課：高音部譜表において、オクターブ高いか低い（第10課：1点八音と2点八音、第14課：1点ホ音と2点ホ音）の書き取り。

第12課、第13課：高音部譜表において、与えられた音から隣り合わせの音（音符）、間が離れた音（音符）の書き取り。

第18課：高音部譜表において、与えられた音から2度上昇または下降の音、3度上昇または下降の音の書き取り。

第22課：大譜表（メヌエット Mozart、3/4拍子、ハ長調、メロディとバス）におけるメロディの中の、リズムしか与えられてない部分の書き取り。

3・10.(10) リズムの書き取り

学習した拍子、リズム（2.の表1を参照）による課題。

第3課：3/4拍子、3小節の課題。

第6課、第7課：2 / 4拍子、6小節の中の抜けた部分を書く。

第10課：任意の課題。

第12課：2 / 4拍子、3小節と4小節（いずれも2 / 4拍子の半拍前から始まる）

第13課：4 / 4拍子、4小節の中の抜けた部分を書く。

第14課：メロディ（コラール Mozart、4 / 4拍子、八長調、高音部譜表、メロディの始めの第3拍、第4拍の音符と、その後の音の高さのみ与えられている、小節線は書いて無い）を書く。

第18課：ロシアの歌を歌い、そのリズムを書く。

第19課：メロディ（「小さな主婦」18世紀のフランスの歌、2 / 4拍子、八長調、高音部譜表、第2拍目から始まるメロディの音符と、2小節目以降の音の高さのみ与えられてあり、小節線も書いてある）を書く。

第22課：2 / 4拍子、5小節の中の抜けた部分を書く。

3.11.(11) 記憶化とイントネーション

全て高音部譜表の音で、ほとんどの音符は4分音符によるフレーズが課題である。それぞれのフレーズは、同じ課の「(7) 歌う読譜」に含まれるフレーズを、ほぼピックアップしたものによっている。「(5) イントネーション」と全く同じ課題で、ここではそれをさらに暗記する。第7課と第9課では、3種類のフレーズのどれを聴いたか答える。

3.12.(12) 即興

学習した拍子、リズム、音（2.の表1を参照）による課題。

第3課：高音部譜表のメロディ（3 / 4拍子、八長調、5小節）の最後の小節の第2拍～第3拍を補って歌う。

第4課：与えられた2小節のフレーズ（高音部譜表、4 / 4拍子、八長調）に続けてメロディを歌い、終わらせる。

第6課：与えられた2小節のフレーズ（高音部譜表、2 / 4拍子、八長調）に続けてメロディを歌い、終わらせる。

第16課：与えられた1小節または2小節の「問い（高音部譜表、4 / 4拍子、八長調）」を歌って、「答え」を作る。

第17課：与えられた2小節の「問い（高音部譜表、2 / 4拍子、八長調）」を歌って、「答え」を即興し、楽譜を書く。

第19課：与えられた2小節の「問い（高音部譜表、2 / 4拍子、八長調）」の「答え」を、楽譜に書く。

3.13.(13) 曲を聴いて問いに答える

第8課：交響曲第7番第2楽章（1～18小節）Beethoven（2 / 4拍子、イ短調）（付属CD1）この曲のリズム（一定の）を書く。

この曲で使われるリズムと、前課（第7課）の「(7) 歌う練習」の曲（子供のためにより「子供の歌」 Bartok、2 / 4拍子、八長調）のリズムの違いを答える。

このリズムは何度聴こえるか答える。

ベートーベンの使った強弱記号を、オーケストラスコアの中で指摘する。

第11課：クラヴサンのための第6オールド「刈り入れをする人」 F. Couperin（4 / 4拍子、八長調）（付属CD 2）

最初の5拍分を暗記する。

最初のフレーズを暗記する。

この曲のメロディの最初の5小節分のリズムと小節線を書く（高音部譜表の音のみ与えてある）。

第15課：「秋の歌」 Schubert（2 / 4拍子、八長調）（付属CD 6）

次のフレーズを記憶してメロディを書く。

・最初のフレーズ（1～2小節）・2番目のフレーズ（3～4小節）・3番目のフレーズ（9～10小節）・4番目のフレーズ（11～12小節）

この歌曲はどのように終わるのか答える（八長調の音階下行形による）。

この曲のメロディの終わりの4小節のリズと小節線を書く（高音部譜表の音のみ与えてある）。

第16課：「ガボットの旋律」 Christoph Graupner（4 / 4拍子、八長調）

繰り返されるフレーズがあるか答える。

最初のフレーズの終わり方を答える（「問い」のフレーズ）。

2番目のフレーズの終わり方を答える（「答え」のフレーズ）。

第20課：交響曲第94番「驚愕」第2楽章（1～24小節） Haydn（2 / 4拍子、八長調）（付属CD 8）

分かったリズムを書く。

曲の始まりを記憶する。

ハイドンが使った強弱記号を、オーケストラスコアの中で指摘する。

スタッカート、スラーを、オーケストラスコアの中で指摘する。

3. 14. (14) ロンドーのリズムを作る

リズム譜に、書かれたリフレイン（4 / 4拍子、2小節）のリズムに対して、第1クプレと第2クプレのリズムを作り書く。（第11課）

4. 各課の終わりにある実習と各復習の終わりにあるテストの問題内容

主な問題のみ以下に挙げる。

- ・リズム譜に小節線を書く（第2課から）
- ・曲におけるフレーズの数と答える。（第2課から）
- ・曲に言葉、歌詞をつける。（第3課から）

- ・曲のメロディ（高音部譜表の）を写譜する。（第3課から）
- ・指定された音符と拍子で、リズムを作って書く。（第4課から）
- ・曲を歌って、楽譜にフレーズ・マークを付ける。（第5課から）
- ・1曲の中で、同じ内容の小節を指摘する。（第5課から）
- ・旋律の中の抜けた部分に、指定された音符、休符を書く。（第5課から）
- ・「月の光」を歌い、高音部譜表に音符を書く（1点八音～1点ホ音の音符のみ）。（テスト1）
- ・1曲の中で、指定されたフレーズと同じフレーズが幾つあるか答える。（第6課から）
- ・与えられたフレーズ（高音部譜表の）に続けてメロディを作り書く。（第7課から）
- ・指示された歌を歌い、そのリズムを書かれているリズムから選ぶ。また、リズム奏を聴いて、どの歌か指摘する。（第8課）
- ・指定された音符、休符、拍子と、スタッカート、スラーを使って、リズムを作って書く。（第9課）
- ・リズム譜の中の抜けた部分に休符を補い完成する。（第9課から）
- ・曲のメロディ（高音部譜表の）における半音を指摘する。（第10課から）
- ・与えられたリズムの拍子を書く。（テスト2）
- ・曲の中のリフレインを指摘する。（第11課から）
- ・ロンドーによる歌を挙げる。（第11課）
- ・リフレイン（2小節）とクプレ（2小節）からなる、14小節のロンドーのリズムを作り、そのリズム譜を書く。（テスト3）
- ・学習した舞曲（メヌエットなど）の名前を挙げる。（テスト3）
- ・リフレインとクプレを使った形式名を答える。（テスト3）
- ・アウフタクトで始まる曲を挙げる。（第12課）
- ・ユーゲントアルバムより「小曲」（1～9小節）Schumann を歌って、「問い」と「答え」を指摘する。（第16課）
- ・エコセーズ Schubert（大譜表）の中で、似たモチーフを指摘し、写譜する。（第17課）
- ・曲の中の音程（2度、3度、4度、6度）を指摘する。（第17課から）
- ・繰り返し記号（D.C. al fine）のある曲の、演奏する小節数を答える。（第21課）
- ・与えられたフレーズで即興し終える。（第21課）
- ・ミクロコスモスより「三連音符」Bartok の中で、拍子の変更はどの小節か答える。（第22課）

5．まとめ

このテキストの各「課（レッスン）」は、音楽的に適格な音楽作品が選ばれ、「歌う読譜（歌うことによる読譜）」を中心に構成され、フォルマシオン・ミュージカルのあらゆる角度から課題が組まれ勉強法を示している。

次に、このテキスト第1巻の教育課題、実習とテスト問題についての特徴をまとめる。

5. 1. 課題

音（音高）に関しては以下の学習課題がある。

（１）音符の読譜（５）イントネーション（１１）記憶化とイントネーション（６）識別（音、またはフレーズの）（７）歌う読譜（８）間違い探し（９）音符（または音の高低の）の書き取り

音は、（１）音符の読譜（５）イントネーションまたは（１１）記憶化とイントネーション

（６）識別（音、またはフレーズの）（９）音符の書き取り（７）歌う読譜の流れで学習する。「（１）音符の読譜」は全ての課と復習にある。このテキスト第１巻では、「（９）音符（または音の高低の）書き取り」は、第１５課の曲（「秋の歌」 Schubert、2 / 4 拍子、ハ長調、付属CDを聴いて）の中の２小節ずつ、フレーズを覚えて楽譜にする以外は、音符（音高のみ）を高音部譜表に書く課題（第４課から）で、第１課～第３課までは、音とその高低の書き取りのみである。

リズムに関しては以下の学習課題がある。

（２）リズムの記憶（３）リズムの識別（４）リズムの読譜（７）歌う読譜（８）間違い探し（１０）リズムの書き取り（１４）ロンドーのリズムを作る

リズムは、各課と復習におけるリズムを記憶することから始める。「（４）リズムの読譜」は、第８課と復習２以外の全ての課と復習にある。「（１０）リズムの書き取り」は、第３課、第１０課、第１８課以外はリズム譜の抜けた部分、または音高のみの部分にリズム、小節線を書き完成する。

「（７）歌う読譜（歌うことによる読譜）」全ての課と復習にあり、各課と各復習における教育内容の中心となる課題で、全て実作品が用いられている。

書かれたフレーズを歌い、その続きを即興で歌い、終わらせる。（第３課から）

与えられたロンドーのリフレインのリズムに基づき、クブレのリズムを作る。（第１１課）メロディの「問い」と「答え」について認識し、与えられた「問い」を歌って、「答え」も即興で歌い、楽譜を書く。（第１６課から）

音程を学習する。（第１７課から）

音楽を聴いて、楽譜に速度標示、強弱記号、スタッカート、スラーを書く（第９課）。実作品を聴いて、楽譜の強弱記号、スタッカート、スラーを指摘する（第２０課）。

各課で使用される実作品は、古い時代 現代の順に使われているのではなく、各課で学習する教育内容、音楽要素に適格な曲が選ばれている。

5. 2. 実習とテストの問題

フレーズについて認識する。（第１課から）

与えられた拍子とリズムに、小節線を書く。（第２課から）

与えられた拍子で、リズムを作り書く。（第４課から）

書かれたフレーズで、メロディを作る。（第７課から）

ロンドーの楽譜の中で、リフレインを指摘する。（第１１課）

ロンドー（リフレインとクプレ）のリズムを作り書く。（テスト3）

メロディに歌詞を付ける。（第19課）

実作品（楽譜）の音程を指摘する。（第20課から）

引用文献・脚注

- 1) フランスにおけるソルフェージュ教育の歴史と、フォルマシオン・ミュージカルについての日本語で読める文献は、次の脚注2)のほかに、次のものがあげられる。
 - ・テシュネ, ローラン、「フランスにおけるソルフェージュ」『L'enseignement du Solfège en France, des origines à la révolution de 1789』、関根敏子訳、第18号、昭和音楽大学研究紀要、1998年。
 - ・テシュネ, ローラン、「明日のための教育法(1) - 19世紀フランスのソルフェージュ - 」『Pour l'enseignement du Solfège de demain 1』、関根敏子訳、第30集、東京藝術大学音楽学部紀要、2005年。
 - ・テシュネ, ローラン、「明日のための教育法(2) - 20世紀フランスのソルフェージュ第1部 - 」『Pour l'enseignement du Solfège de demain 2』、関根敏子訳、第31集、東京藝術大学音楽学部紀要、2006年。
 - ・テシュネ, ローラン、「明日のための教育法(3) - 20世紀フランスのソルフェージュ第2部 - 」『Pour l'enseignement du Solfège de demain 3』、関根敏子訳、第32集、東京藝術大学音楽学部紀要、2007年。
- 2) 泉谷千晶、「フランスのフォルマシオン・ミュージカルの変遷と改革 - 1978年以降のソルフェージュ教育の動向 - 」、第25号、青森明の星短期大学紀要、7～8頁、1999年。
- 3) 泉谷千晶、「フランスのフォルマシオン・ミュージカルの変遷と改革 - 1978年以降のソルフェージュ教育の動向 - 」、第25号、青森明の星短期大学紀要、10～24頁、1999年。
- 4) Labrousse, Marguerite, *Cours de FORMATION MUSICALE 1ère année ~ 7ème année*, Edition Henry Lemoine, Paris, 1993 ~ 1998.
- 5) Labrousse, Marguerite, *Cours de FORMATION MUSICALE 1ère année*, Edition Henry Lemoine, Paris, 1993.
- 6) 脚注5)の文献